

会期中の併催イベント

会長講演・表彰式

日時：3月28日(金) 13時40分～15時20分
会場：S2会場(豊田講堂ホール)

プログラム

13:40- 会長講演「日本化学会会員の皆さんに期待すること」
(平成24、25年度会長) 玉尾 皓平
14:20- 表彰式

スプリングコンサート2014

日時：3月28日(金) 16時～17時
会場：S2会場(豊田講堂ホール)

化学オーケストラ：

日本化学会会員を中心に広く化学関係者によって2002年に結成された音楽団体です。例年、日本化学会春季年会における「スプリングコンサート」で演奏を披露するほか、秋の「千代田区オーケストラフェスティバル」への参加を続けております(2014年10月25日(土)、大手町・日経ホール)。

今回の「スプリングコンサート」では、プロの指揮者を迎え、「ワルツ王」J. シュトラウスⅡの最も有名なウィンナー・ワルツと、古典派の重鎮にして「交響曲の父」と称されるハイドンの代表的交響曲などをお楽しみいただきます。

指揮：宮野谷義傑(オーケストラトウキョウ音楽監督)

曲目：ブラームス/ハンガリー舞曲第1番、J. シュトラウスⅡ/ワルツ「美しく青きドナウ」、ハイドン/交響曲第100番「軍隊」(全4楽章)

参加費：無料

問合せ先：日本化学会事務局 保倉光邦

E-mail: hokura@chemistry.or.jp

http://homepage3.nifty.com/upward/orchestra/

懇親会

日時：3月28日(金) 18時～20時
会場：豊田講堂

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。先生方におかれましては学生の参加費は低く抑えておりますので、ぜひお問い合わせの上ご参加いただけますと幸いです。

参加費：一般6,000円、学生2,000円

申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。

ATP交流会

日時：3月27日(木) 17時30分～19時
会場：南部厚生会館 2階

ATP交流会では、気軽に立ち寄れる出会いと交流の場を、年会参加者の皆様に提供します。企業の研究者にいろいろ聞いてみたい学生の皆様、ATPセッションのオーガナイザーや講演者と親密に交流したい皆様には、願ってもないチャンスです。オーガナイザーや企業研究者(ATP委員)が、目立つ名札を付けて皆様との交流をお待ちしています。年会2日目のATPセッションの紹介もありますし、アルコール、ソフトドリンク、軽食だけでなく、ささやかなプレゼント抽選会も用意しています。年会初日の

夕方は、是非お問い合わせでATP交流会にお越し下さい。のどを潤しながら、楽しく語り、盛り上がりましょう。

参加費：学生無料、一般1,000円

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は要りませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 河瀬

電話(03)3292-6163

E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

Chem-Station イブニングミキサー

日時：3月28日(金) 18時～19時30分
会場：南部厚生会館2F

玉尾会長と渡辺実行委員長との対談より1つ企画が生まれました。学生や博士研究者を中心とする若手研究者や留学生の方に交流の場をChem-Stationより提供いたします。※詳細はWEB(<http://www.chem-station.com>)をご覧ください。

参加費：無料(※飲物は参加者が購入するスタイル)

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は要りませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

あかりんご隊の科学実験

日時：3月29日(土) 11時～15時20分
会場：野依記念学術交流館1F カフェスペース

春季年会では、小学生向けに名古屋大学の「あかりんご隊」を中心として、実験教室を開催いたします。

【実験内容】

- 1) 空中に浮かぶ不思議な棒「テンセグリティ」
- 2) 「細胞」を見てみよう
- 3) 深海生物や天体の「ペーパークラフト」コーナー
- 4) 「1日博士」の写真撮影コーナー

【実施時間帯】

第1回 11:00

第2回 13:30

第3回 14:30

集合時間：各回開始10分前までに受付にお越し下さい。

定員：各回20名まで(定員になり次第締め切らせていただきます)。

所要時間：40分程度

参加費：無料

対象：小学生を主な対象としています。

申込方法：予約専用のサイトよりお申し込み下さい。

※詳細はWEBにて。

URL：<http://www.csj.jp/nenkai/94haru/>

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

市民公開講座 ～科学で未来をきり拓く～

主催：日本化学会

共催：名古屋大学

後援：中日新聞社

日時：3月30日(日) 13時～16時40分

会場：S1会場(野依記念学術交流館2F カンファレンスホール)

春季年会実行委員会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回は市民の

方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

- 13:10- 21世紀を牽引する驚異の物質～ナノカーボン～（名大院理）篠原 久典
14:00- 新元素の探索—現代の錬金術—（九大院理）森田 浩介
15:00- 共生がもたらす生命の多様性（産総研生物プロセス研）深津 武馬
15:50- 眠り病を眠らせよう—日本の「くすり」がアフリカに—（東大院医）北 潔
参加費：無料
申込方法：事前申込不要。当日会場にて受付。
問合せ先：日本化学会 企画部 年会係
電話(03)3292-6163
E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

付設展示会

主催：日本化学会
協力：(株)化学工業日報社
後援：一般社団法人日本科学機器協会・一般社団法人日本分析機器工業会・日本薬科機器協会・一般社団法人日本試薬協会
日時：3月27日(木)～29日(土) 10時～17時
会場：体育館
参加費：無料
出展社：
RSC (英国王立化学会), IOP 英国物理学会 出版局, (株)アイニス, 朝日分光(株), アジレント・テクノロジー(株), アステック(株), (株)アドバンテスト, (株)アプライド・マイクロシステム, (株)アポロウェブ, American Chemical Society, (株)イーシーフロンティア, (株)池田理化, 米国法人 Wavefunction, Inc., 独立行政法人宇宙航空研究開発機構, HPC システムズ(株), (株)エル・エム・エス, エルゼビア・ジャパン(株), 大塚電子(株), オプトシリウス(株), 一般社団法人化学情報協会, (株)化学同人, カクタス・コミュニケーションズ(株), 関東化学(株), (有)桐山製作所, (株)グループボックス・ジャパン, (株)ケー・エヌ・エフ・ジャパン, 公益財団法人高輝度光科学研究センター, (株)講談社, コスモ・バイオ(株), コンフレックス(株), サーマフィッシュサイエンティフィック(株), Scilligence Corporation, (株)CD-adapco, シーティーシー・ラボラトリーシステムズ(株), J-PARC・物質生命科学実験施設, シグマアルドリッチ ジャパン合同会社, システム・インスツルメンツ(株), (株)システムハウス・サンライズ, 柴田科学(株), (株)写真化学, ジャパンハイテック(株), シュプリンガー・ジャパン(株), シュレーディングガー(株), 純正化学(株), 昭光サイエンティフィック(株), (株)スギヤマゲン, 独立行政法人製品評価技術基盤機構, (株)セントラル科学貿易, 一般財団法人総合科学研究機構, (株)ダイセル, WDB(株), (株)デジタルデータマネジメント, Taylor & Francis Group (CRC Press), (株)東京インスツルメンツ, (株)東京化学同人, 東京化成工業(株), 東ソー(株), トムソン・ロイター, (株)中村超硬, ナカライテック(株), 名古屋大学ナノテクノロジープラットフォーム, 公益社団法人日本化学会, 公益社団法人日本技術士会 化学部会, 日本製紙クレシア(株), 日本電子(株), 日本分光(株), 日本分析工業(株), ネイチャー・パブリッシング・グループ, (株)パーキンエルマー・ジャパン, (株)バイオクロマト, バイオタージ・ジャパン(株), (株)パキューブランド サイエンティフィックジャパン, 浜松ホトニクス(株), ビー・エー・エス(株), ヒドラス化学(株), 兵庫県立大学リーディング大学院, 富士通(株), (株)伏見製薬所, (株)藤原製作所, ブルカー・エイエックスエス(株), 北海道大学同位体顕微鏡システム, 丸善(株)卸営業部, 丸善出版(株), 文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム, 山善(株), (株)UNICO, (株)ユニソク, ユラボジャパン(株), (株)ライトストーン, (株)リガク, (株)菱化システム, (株)ワイエムシイ, ワイリー・ジャパン, 和光純薬工業(株), 渡辺化学工業(株)

天然物および生物有機化学に関する 中西シンポジウム 2014

主催：中西シンポジウム実行委員会
日本化学会 天然物化学・生命科学ディビジョン
日時：3月27日(木) 13時30分～17時30分
会場：S5会場（法経本館共用館 1F 第1講義室）

中西シンポジウムは、日本化学会と米国化学会との取決めにより偶数年度は日本で、奇数年度は米国にて選考されるナカニシ・プライズの受賞講演を含み、該当国で交互に開催されている。本プライズは生物活性天然物の単離、構造解析、生物機能、合成及び全合成分野での顕著な研究業績を対象に選考され、本年度は本化学会に設置された選考委員会によって Jerrold Meinwald 氏 (Cornell Univ.) に授与することを決定した。本企画では、受賞者による講演に加えて、受賞対象分野に関連する最新の研究成果を周辺分野の研究者に紹介していただく。

プログラム

- 13:30-14:00 ナカニシ・プライズ授賞式
(座長) 橋 和夫 (東京大学)
Nakanishi Prize 2014 Awardee: Prof. Jerrold Meinwald (Cornell University)
14:00-17:00 中西シンポジウム
(座長) 村田 道雄 (大阪大学)
14:00- "Chemistry and Biology of Plant Leaf-movement" 上田 実 (東北大学)
14:35- "Toward an Ideal Synthesis of Bioactive Molecules Through Direct Arene Assembling" 山口 潤一郎 (名古屋大学)
(座長) 上田 実 (東北大学)
15:10- "Exploration of New Juvenile Hormone of Heteropteran Insects" 品田 哲郎 (大阪市立大学)
15:45-16:20 "Chemical Ecology of Insect-Plant Interactions —Ecological Roles of Phytochemicals" 西田 律夫 (京都大学)
(座長) 橋 和夫 (東京大学)
16:20-17:30 受賞講演:
"Exploring the Chemistry of Biotic Interactions" Prof. Jerrold Meinwald (Cornell University)
参加費：無料/聴講可能
申込方法：事前申込不要、当日会場にて受付いたします。
問合せ先：日本化学会 企画部 稲田
電話(03)3292-6163
E-mail: inada@chemistry.or.jp

化学会発行英文ジャーナルの 国際情報発信力強化に向けての 課題と展望

主催：日本化学会
協力：トムソン・ロイター
日時：3月28日(金) 9時～11時10分
会場：S6会場（法経本館共用館 1F 第2講義室）

日本化学会のジャーナル2誌 (BCSJ, CL) は、国際的なビジビリティ向上に向けて様々な取り組みを行っている。本フォーラムでは日本化学会ジャーナルと世界の主要ジャーナルの1つである *Angewandte Chemie* の編集長と日本化学会会員諸氏との接点・議論の場を提供する。①化学分野におけるジャーナルの今後の課題と展望、②日本化学会の2誌 (BCSJ, CL) のビジビリティ向上への施策など、喫緊の課題とその解決法について、編集者、研究者 (筆者・読者) 両者の視座から議論いただき、講演及びパネルディスカッションを通じて理解を深める機会としたい。皆さまの積極的な参加をお願いいたします。

プログラム

- 09:00- Opening Remarks/Chair: Yoshiki Chujo (Kyoto University)
09:10- 1st Session: Lecture (15min. × 4)
① Norihiro Tokitoh (BCSJ Editor-in-Chief)
② Peter Göltz (Angewandte Chemie Editor-in-chief)
③ Kazuyuki Kuroda (Waseda University)
④ Katsuhiko Ariga (National Institute for Materials Science)
10:10- 2nd Session: Panel Discussion (60min.)

Moderator: Katsuhiko Ariga (National Institute for Materials Science)

Panelists:

- Peter Göltz (Angewandte Chemie Editor-in-chief)
- Norihiro Tokitoh (BCSJ Editor-in-Chief)
- Mitsuhiko Shionoya (CL Editor-in-Chief)
- Kazuyuki Kuroda (Waseda University)
- Takashi Kato (The University of Tokyo)
- Kaoru Hatano (Thomson Reuters)

使用言語: 英語

参加費: 無料

申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 学術情報部 鈴木 慎一

電話(03)3292-6165

E-mail: s-suzuki@chemistry.or.jp

ケミカルレコード・レクチャー The Chemical Record Lecture 2014

主催: 日本化学会・Wiley-VCH

日時: 3月28日(金) 15時30分~16時20分

会場: S6会場(法経本館共用館 1F 第2講義室)

日本の化学関係8学協会の雑誌として刊行した総合論文誌“The Chemical Record”は、2011年より日本化学会の雑誌としてリニューアルしました。Wiley-VCHとの本格的な提携によりインパクト・ファクターも着実に向上しております。山本尚編集委員長による編集体制の下、本年も年会時にTCR Lectureを開催いたしますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。

プログラム

15:30- Exploring Chemoselectivity through Natural Product Total Synthesis

Prof. Scott A. Snyder (The Scripps Research Institute)

Chair: Prof. Masayuki Inoue (The University of Tokyo)

参加費: 無料(年会登録者に限る)

申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 学術情報部 TCR 係

電話(03)3292-6165

E-mail: tcr@chemistry.or.jp

社会の持続的発展のための分子技術

主催: 日本化学会学術研究活性化委員会

日時: 3月29日(土) 13時~17時

会場: S9会場(法経本館共用館 3F 第1講義室)

社会の持続的発展、我が国の学問と産業力のさらなる発展と新たな展開、新材料・新デバイス・新プロセス等の創出のために、分子の働き・振る舞いを自在に制御する「分子技術」を開拓・確立することが重要である。分子材料の明確に設定した機能創出のための分子構造の設計・合成・変換技術、分子の集合・複合構造の創成・制御技術、分子機能発現技術、デバイス化・プロセス化の創成技術に関する「分子技術」を本企画において議論する。

プログラム

13:00-13:05 趣旨説明(東京大学)加藤 隆史

13:10-13:15 分子技術 CREST説明(中部大学)山本 尚
座長 菅 裕明

13:20-13:40 分子技術による単分子量子磁石を用いた量子分子スピントロニクス創成(東北大学)山下 正廣

13:40-14:00 画期的な新規核酸医薬の分子技術の創出(東京医科歯科大学)横田 隆徳
座長 山下正廣

14:00-14:20 擬天然物の新機能創出分子技術(東京大学)菅裕明

14:20-14:40 ソリューションプラズマ精密合成場の深化とカーボン触媒の進化(名古屋大学)齋藤 永宏

14:40-14:55 休憩

14:55-15:10 分子技術 さきかけ説明(東京大学)加藤 隆史

座長 長田健介

15:10-15:25 「 π 電子系を動かす」技術に基づく新規機能材料の創出(名古屋大学)齋藤 尚平

15:25-15:40 高性能有機材料創出のための分子描像に立脚した大規模量子伝導計算理論の確立とその応用(筑波大学)石井宏幸

15:40-15:55 炭素 π 共役系分子錯体の非平衡分子界面科学(京都大学)村田 靖次郎

15:55-16:10 バイオミメティック分子技術と自己組織化による磁性機能素子の創出(東北大学)藪 浩
座長 齋藤尚平

16:10-16:25 超分子構造体の光誘起形態変化と光駆動物質輸送(京都大学)東口 顕士

16:25-16:40 ナノ分子技術を目指した自己組織化高分子の精密直接水重重合(福井大学)杉原 伸治

16:40-16:55 pDNAの量子化折り畳み構造形成の解明と遺伝子送達への応用(東京大学)長田 健介

16:55-17:00 おわりに(中部大学)山本 尚・(東京大学)加藤隆史

参加費 無料。希望者には「第2次先端ウオッチング調査報告書」を1,000円で配布。

申込方法 当日直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 企画部 美園

電話(03)3292-6163

E-mail: misono@chemistry.or.jp

日米国際交流シンポジウム: 有機元素化学の最先端と展望

主催: 日本化学会

共催: アメリカ化学会

新学術領域研究「感応性化学種が拓く新物質科学」

日時: 3月29日(土) 9時~12時10分

会場: S5会場(法経本館共用館 1F 第1講義室)

天然資源に乏しい我が国では、現在、「元素戦略」という研究施策を強力に推進している。この重要な意味の1つは、物質の特性・機能を決める特定元素の役割を理解し、有効活用することにある。この点でホウ素、ケイ素、リン、硫黄を代表とする典型元素は、分子機能を生み出すシーズの宝庫であり、それら元素の機能の攻究は、優れた分子系の創出につながる。今回のシンポジウムでは、有機典型元素化学を先導する日米の第一線の研究者6名の方にご講演いただく。特異な典型元素化学種の化学や、典型元素を鍵とする反応、機能性分子の創出、生体内反応の解明など、多彩な方向に発展する先端有機典型元素化学の最前線について紹介いただき、本分野の課題や将来の展望について議論したい。

プログラム

09:00- 趣旨説明 山口 茂弘(WPI-ITbM)

09:05- 開会の辞 アメリカ化学会 会長 Thomas J. Barton

■座長 山下 誠(中央大理工)

09:10- “Isolable Alkyl-substituted Low-coordinate Species of Heavy Main Group Elements” 岩本 武明(東北大院理)

09:30- “Silylene Transfer Reactions as New Methods for Stereoselective Synthesis” Keith Woerpel(ニューヨーク大)

■座長 山本 陽介(広島大院理)

10:10- “Some Interesting Perspectives of Base-stabilized Silylenes” 加藤 剛(トゥールーズ大)

10:30- “The Structure of Excitons and Polarons in Oligosilanes: Five Hybrid Orbitals on a Silicon Atom” Josef Michl(コロラド大ボルダー校)

■座長 関口 章(筑波大院数理物質)

11:10- “Organoelement Chemistry in Mechanistic Studies on Biological Reactions” 後藤 敬(東工大院理工)

11:30- “Stable Carbenes and Related Species: Powerful Tools in Organic, Inorganic and Organometallic Chemistry” Guy Bertrand(カリフォルニア大サンディエゴ校)

12:00- 閉会の辞 日本化学会 会長 玉尾 皓平(理化学研究所)

参加費: 無料/聴講可能

申込方法: 事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 企画部 稲田

電話(03)3292-6163

E-mail: inada@chemistry.or.jp

第8回化学遺産市民公開講座

主催：日本化学会化学遺産委員会・化学史学会
共催：日本化学工業協会（予定）
日時：3月29日（土） 13時30分～17時15分
会場：S6会場（法経本館共用館 1F 第2講義室）

化学遺産委員会では、平成21年度から化学関連の学術あるいは化学技術遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重な史料を認定する『化学遺産認定制度』を開始し、これまでの4回で22件を認定・顕彰した。平成25年度もこれまでと同様に化学遺産認定候補を一般市民・会員諸氏より公募するとともに、委員会でも認定候補として相応しいものを選定し、対象候補23件の調査・検証作業を行った。今回の市民公開講座では、基調講演とともに本年度第5回化学遺産として認定した内容を具体的に紹介する。

プログラム

司会 宮村 一夫（東理大）
13:30-13:35 開会挨拶（京大・名誉）植村 榮
13:35-14:25 基調講演 ノーベル賞から見た現代化学の発展（京大・名誉）廣田 襄
14:25-14:50 日本の近代化学の礎を築いた櫻井錠二（科博）若林文高
14:50-15:15 日本薬学の始祖・長井長義（徳島大・名誉）渋谷 雅之 休憩
15:30-15:55 125年の歴史を刻む学び舎—日本の発展に貢献した化学者が学んだ階段教室—（熊本大）谷口 功
15:55-16:20 舎密から化学技術へ—化学技術者になった武士・宇都宮三郎（地域人文化学研究所）天野 博之
16:20-16:45 プラスチック成形加工工業大発展の礎となったIsoma射出成形機及び金型（日本化学会フェロー）田島 慶三
16:45-17:10 電気の原料化と国産技術の振興を理念に—日本初のアルミニウム生産の工業化—（昭和電工）岩崎 廣和
17:10-17:15 閉会挨拶（トクヤマ）三浦 勇一

参加費：無料。講演会資料代1,000円（当日徴収）。
申込方法：下記日本化学会化学遺産HPよりお申し込み下さい。当日参加もできます。
URL：<http://www.chemistry.or.jp/know/heritage/>
問合せ：日本化学会 企画部 美園
電話(03)3292-6163
E-mail: misono@chemistry.or.jp

第21回化学教育フォーラム ～理科教育における産学連携の可能性

主催：日本化学会 教育・普及部門
日時：3月29日（土） 13時30分～17時00分
会場：S8会場（法経本館共用館 2F 第3講義室）

我が国の新しい学習指導要領は21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目標としている。一方で科学技術立国日本の未来担う科学技術者確保のために、初等・中等教育においては体験的な理科の学習が重視されている。子ども達が理科を学ぶ有用性を実感するためには、実社会や実生活と理科との関連性を体感することが有効である。しかしながら学校現場では、普段の授業において、化学や物理などの実験は行われても、化学産業における生産現場の見学、などの体験的な学習は、必ずしも取り入れられているとは言えない状況にある。本フォーラムでは、すでに学校現場と産業界が連携し、教科書では学ぶことのできない理科の体験的なプログラムを実施している事例を紹介しつつ、学校現場と産業界の連携の在り方、双方に意義のある関わり方について考察したい。

プログラム

13:30-13:45
1. 開会の挨拶（普及・交流委員会 委員長）齊藤 幸一
2. 趣旨説明
（化学教育フォーラム企画小委員会 委員長）山崎 友紀
13:45-15:45
3. 高等学校の理数教育における企業との連携

（愛知県教育委員会 指導主事）山脇 正成
4. 学校側からの産学連携の事例紹介
（静岡県立磐田南高等学校）青島 晃
5. 理科教育におけるキャリア教育の取り組み 教諭
（NPO 法人アスクネット）白上 昌子
6. 科学好きな子供を育てる
（株）学研エデュケーショナル 元科学実研開発室 室長）河野 裕
16:05-17:00
7. パネルディスカッション
8. 閉会の挨拶（教育・普及部門 部門長）西原 寛

参加費：無料
申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ：日本化学会 企画部 大倉
電話(03)3292-6163 E-mail: ohkura@chemistry.or.jp

政治、社会、産業界から見た 日本化学会のあり方

主催：日本化学会
日時：3月29日（土） 13時30分～17時30分
会場：S5会場（法経本館共用館 1F 第1講義室）

日本化学会では会誌「化学と工業」に論説欄を設けて産・官・学・報道・国際など様々な分野のリーダーにタイムリーな意見を投稿していただいている。その内容は極めて的を射たもので、学会の良識、見識として高く評価されている。しかし、それらの卓見は言いっぱなしで終わっており、フォローがなされていないことも事実である。現在我々を取り巻く状況は非常に複雑で学会だけで解決できるものの方が少なく、学会の進むべき方向を議論するには産・官・学・報道・国際の密接な連携が不可欠である。そこで、今回は「会長特別企画」として論説執筆者に集まっていただき、複眼的視野から多角的に日本化学会、アカデミアのあり方を議論し、学会からの提言にまでつなげていきたい。

プログラム

13:30- 趣旨説明（東大）尾嶋 正治
13:35- 化学と工業誌の論説で取り上げられた課題（奈良先端大）村井 真二
14:00- 政治と科学をつなぐ—「科学技術イノベーション総合戦略」の具体化と課題（JST）有本 建男
14:25- 学会からの国家政策提言への期待（内閣官房）岡村 直子
14:50- 休憩
15:00- 産業界から見たイノベーション立国への課題（昭和電工）高橋 恭平
15:25- リスクコミュニケーション：社会的合理性が大切（NHK）小出 五郎
15:50- 国際的視野から見た日本化学会の課題（中部大）山本 尚
16:15- パネル討論「日本化学会の課題：我々は今なにをすべきか？」
17:25- 今後に向けて（理研）玉尾 皓平
参加費：無料
申込方法：自由/事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ：日本化学会 企画部 美園
電話(03)3292-6163
E-mail: misono@chemistry.or.jp

男女共同参画第14回シンポジウム 社会にはばたく、世界にはばたく、 あなたがリーダーになるために ～第2回女性化学者奨励賞受賞者紹介～

主催：男女共同参画推進委員会
協賛：男女共同参画学協会連絡会
日時：3月29日（土） 13時15分～17時30分
会場：SA会場（法経本館共用館 3F 第2講義室）

日本化学会男女共同参画委員会では、毎年シンポジウムを開催し、女性研究者並びに技術者の活躍増進並びに女子学生の進路選択や将来の活躍の支援のために、様々な共同参画支援制度やロールモデルの紹介、男女共同参画の課題についての議論を行っている。本年会においても同様な趣旨のシンポジウムを開催します。

プログラム

- 13:15- 開会挨拶 (玉尾皓平会長)
13:20- "Partners for Progress and Prosperity: A Personal and Professional Journey" (2013 President, ACS) Marinda Wu
14:00- 日本化学会女性化学者奨励賞受賞者紹介 (阪大院理) 原田 明
14:30- 「青葉理学振興会黒田チカ賞の創設—理系女性研究者育成のために」(東北大) 荻野 博
15:00- 「IUPAC 国際女性化学賞から見る女性研究者の活躍」(東北大) 栗原 和枝
15:30- 休憩
15:40- 「企業で長く働く～“ためらい”から自分を解放しよう～」(住友化学) 関根 千津
16:10- 「多様な人材の活躍推進を担当して、進めてきたこと」(ライオン) 稲葉 美穂子
16:40- 自由討論
17:10- 閉会挨拶
17:30- 懇親会 無料 (学生歓迎)

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 学術情報部 田中

電話(03)3292-6165

E-mail: danjo@chemistry.or.jp

人工光合成研究の最前線： 挑戦する若手研究者 —JSTさきがけ「光エネルギーと 物質変換」領域研究成果報告会—

主催：科学技術振興機構 (JST)

共催：日本化学会・文部科学省新学術領域研究「人工光合成による太陽光エネルギーの物質変換：実用化に向けて異分野融合」

日時：3月27日(木) 9時30分～18時

会場：S7 会場 (法経本館共用館 2F カンファレンスホール)

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により、我が国のエネルギー政策について抜本的な見直しが進められている。太陽光エネルギーなど再生可能エネルギーの本格的な利用に向けた研究開発が喫緊の課題になっている。平成21年度科学技術振興機構に発足した「さきがけ：光エネルギーと物質変換」研究領域では、太陽光の有効利用の中で最も本質的な課題「光エネルギー/化学エネルギー変換 (人工光合成)」に真正面から取り組んでいる。

当研究領域では、毎年日本化学会春季年会会期中にシンポジウムを開催しており、第91春季年会では国際シンポジウム「光エネルギーと物質変換：人工光合成の未来」を、第92春季年会では、当領域を含む化学関連さきがけ4領域合同で「持続する社会を先導する光科学：環境・エネルギー・機能材料」を開催し、いずれも500名を超える参加者を集め好評を博した。また昨年の第93春季年会では『人工光合成研究の最前線：挑戦する若手研究者—JSTさきがけ「光エネルギーと物質変換」領域研究成果報告会』を開催し300名を超える参加者を集めた。

今回も、人工光合成研究の世界的な権威者の外国人研究者による特別講演のほか、平成22年度採択研究者による研究成果と中間成果の口頭発表、平成21、23年度採択研究者によるポスター発表を行い、さきがけ研究領域の現状と将来展望について議論する。それにより人工光合成研究課題の重要性及び研究領域への参画を化学関連若手研究者等に広く情報発信し、化学関連研究者への科学的刺激と更なる研究推進に資することを目的とした。

プログラム

開会挨拶 (JST さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究総括/首都大東京人工光合成研究センターセンター長・特任教授) 井上 晴夫

【研究発表 (口頭発表)】

1. ペロブスカイト型金属酸化物を反応場とした物質・エネルギー変換 (JST さきがけ研究者・カリフォルニア工科大材料科学客員研究員) 山崎 仁丈
2. 表面振動分光法による光エネルギー変換システムの界面構造の評価 (物質・材料研究機構国際ナノアーキテクトニクス研究

拠点研究員) 野口 秀典

3. 光化学的手法による天然有機色素の金属バインディング機能創出 (分子研生命錯体分子科学研究領域教授) 村橋 哲郎
 4. 籠型分子の内部に展開する光-物質変換機能触媒の創出 (阪大院理教授) 船橋 靖博
 5. 表面バンドエンジニアリングによる高性能水分解光触媒の創生 (東工大理工学准教授) 前田 和彦
- 特別講演：Artificial Photosynthesis— Water Oxidation is The Key (Royal Institute of Tech. (KTH) Sweden) Prof. Licheng Sun
6. 分子性酸化物を用いた高効率水完全酸化触媒の創生 (広大院理工学准教授) 定金 正洋
 7. 光アンテナにナノ粒子や分子を集める・観る・反応させる (阪大院理教授) 坪井 泰之
 8. 安定デバイス創製に向けた光合成反応制御機構の解明 (京大院生命科学助教) 伊福 健太郎
 9. 光合成による高効率エネルギー変換と水の酸化機構の解明 (愛媛大プレテオサイエンスセンター准教授) 杉浦 美羽
 10. 光合成で駆動する新しい生物代謝 (JST さきがけ研究者・神奈川大光合成水素生産研客員教授) 永島賢治
 11. 油生産緑藻の葉緑体と細胞全体の生理との相関を見る多角的顕微分光分析 (京大院理工学准教授) 熊崎 茂一
 12. 超解像蛍光顕微鏡による珪藻のバイオミネラル化の解析 (山形大院理工学准教授) 堀田 純一

閉会挨拶 (科学技術振興機構)

参加費・研究成果報告書・講演要旨集：無料

研究交流会 (同日18時30分～20時30分、会場：名大キャンパス内レストラン・ユニバーサルクラブ) 予価2,000円

【研究発表 (ポスター)】

平成21、23年度さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域採択研究者による発表。内容は春季年会プログラムをご覧ください。

日時：3月28日(金)9時30分～12時

会場：名古屋大学東山キャンパス体育館 (日本化学会第94春季年会会場)

申込方法：JST さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域 HP からお申し込み下さい。

<http://www.chem-conv.jst.go.jp/index.html>

問合せ先：科学技術振興機構さきがけ

「光エネルギーと物質変換」研究領域事務局

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京 プロジェクト研究棟 302 号室

電話(042)653-3415, FAX(042)653-3416

E-mail: tamaki@chem-conv.jst.go.jp

Reaxys Prize Club シンポジウム in Japan 2014

主催：エルゼビア・ジャパン株式会社

日時：3月28日(金) 14時～17時

会場：SA 会場 (法経本館共用館3階 第2講義室)

歴代の Reaxys PhD Prize の受賞者及びファイナリストによる講演です。また、特別講演として、有機EL研究をリードする九州大学の安達千波矢先生に最新の研究状況を発表いただきます。

Reaxys PhD Prize は、2010年にエルゼビアが設立、若手研究者向けの国際的な賞として徐々に拡大し、前回は世界60カ国の400を超える大学から581名の応募をいただきました。

グローバルサイトはこちら (<http://inspiringchemistry.reaxys.com/phdprize/>)。

プログラム (すべて日本語講演)

14:00- 開会のあいさつ

14:05- 特別講演：分子設計が拓く新しい発光分子—高効率熱活性化遅延蛍光材料—の登場 (九大・OPERA 教授) 安達 千波矢

14:40- 多機能金属ナノ粒子触媒～Innovation and creation in heterogeneous catalysis inspired by Reaxys PhD Prize (東大院理特任助教) 宮村 浩之

15:10- 新規π拡張型縮環ポルフィリノイドの化学 (京大院理助教) 田中 隆行

15:35- 第9族金属アニオン錯体を鍵活性種とする炭素—炭素結合形成反応 (阪大院理工助教) 岩崎 孝紀

16:00- ケイ素—ケイ素三重結合化合物ジシリルとアゾベンゼンと

の反応による Si_2N_2 四員環ピラジカロイドの合成 (京大化研助教) 竹内 勝彦
16:25- 硫黄を鍵元素とする新規変換反応の開発について (京大白眉センター/京大院理特定助教) 村上 慧
16:50- 閉会のあいさつ
参加費: 無料
申込方法: 当日参加 (学会参加者)
問合せ先: エルゼビア・ジャパン株式会社
マーケティング 神田
〒106-0044 東京都港区東麻布1丁目ビル4階
電話 (03)5561-5034
E-mail: jp.pr@elsevier.com
<http://japan.elsevier.com/news/events/rx2014/>
ご案内: 展示会場で Reaxys デモ及び関連書籍の販売を行います。

博士セミナー —企業から博士人材への期待—

主催: 日本化学会産学交流委員会人材交流小委員会
日時: 3月29日(土) 13時30分~17時40分
会場: SB会場 (全学教育棟本館 S21教室)

プログラム
13:30-14:30 博士研究者に対する期待
長瀬 公一 (人材交流小委員会・委員長/東レ)
14:40-15:30 パネルディスカッション: 企業はこんな博士を求めている
司会: 長瀬 公一 (東レ)
パネリスト: 朝日 透 (早大)・尾下 善紀 (ニコン)・
権 正行 (京大)・松岡 亜季 (名大)
15:40-16:30 パネルディスカッション: 博士でしか得られないもの
司会: 朝日 透 (早大)
パネリスト: 藤岡 正洋 (花王)・長瀬 公一 (東レ)・
武田 康太 (東京農工大)・衣田 裕孝 (阪大)
16:40-17:30 パネルディスカッション: 企業でも活躍できるポスドク
司会: 上野 文雄 (東芝)
パネリスト: 山口 晃司 (東レ)・富ヶ原 祥隆 (住友化学)・
増田 美幸 (東京農工大)・國本 雅宏 (早大)
17:30-17:40 総括
中村 暢文 (人材交流小委員会・副委員長 / 東京農工大)
参加費: 無料 (年会登録者に限る)
申込方法: 事前申込不要
問合せ先: 日本化学会 企画部 河瀬
電話 (03)3292-6163
E-mail: sangaku@chemistry.or.jp